qmail memorandum

qmail メモランダム Version 1.0

Copyright © 2005 Isidore.

保証免責

本書は記載事項またはそれに関わる事項について、明示的あるいは黙示的な保証はいたしておりません。したがいまして、これらを原因として発生した損失や損害についての責任を負いません。

著作権

本書および本書に記載されておりますソフトウェア等は、著作権により保護されております。また非商用目的以外に、本書を複製、再頒布することを禁止いたします。

表記について

本書では以下の書体を使用しています。

● イタリック文字

本文中でのコマンド、ファイル名、変数など可変なパラメータ値を表します。

● 等幅文字

ファイルの内容やコマンドの入出力例に使います。入力の場合にはボールドで表します。

```
$ cd /usr/src/sys/i386/conf
$ ls

GENERIC Makefile OLDCARD SMP

GENERIC.hints NOTES PAE gethints.awk
$
```

● 省略文字

ファイルの内容やコマンドの入出力例を省略する場合に'...'を使います。

```
$ vi /etc/rc.conf
...
sshd_enable="YES"
named_enable="YES"
...
$
```

● プロンプト

一般または、管理権限を持った実行環境をそれぞれ、'\$'(ドル)、'#'(シャープ)のプロンプトで表します。

```
$ su
Password: root's passwd
#
```

目次

1.	はじめ	りに	1
	1.1.	本書について	1
	1.2.	前提知識	1
2.	メーノ	レサービス構築 (1)	2
	2.1	サービス概要	2
	2.2	必要ソース	2
	2.3	ucspi-tcp 構築方法	2
	2.4	daemontools 構築方法	3
	2.5	qmail の構築方法	4
	2.5.1	. パッチ適用	4
	2.5.2	. ユーザ/グループ作成	5
	2.5.3	. コンパイル/インストール	5
	2.5.4	. コントロールファイル編集	5
	2.5.5	. qmail 起動構成-rc	6
	2.5.6	. qmail 起動構成-qmail-smtpd	7
	2.5.7	. qmail 起動構成-qmail-pop3d	8
	2.6	vpopmail 構築方法	9
	2.6.1	. ユーザ/グループ作成	9
	2.6.2	. コンパイル/インストール	9
	2.6.3	. 接続制御データベース作成	9
	2.6.4	. 接続制御データベース自動クリーンアップ1	0
	2.6.5	. vpopmail ホームディレクトリ権限1	0
	2.6.6	. ヴァーチャルドメイン/ヴァーチャルユーザ追加1	0
	2.7	DNS 設定	1
3.	メーノ	レサービス構築 (2)1	2
	3.1	サービス概要1	2
	3.2	必要ソース1	2
	3.3	ezmlm 構築方法 1	2
	3.4	qmailadmin 構築方法 1	3
	3.5	apache 構築方法1	3
	3.6	メーリングリスト件名対応1	5
	3.7	メーリングリスト Bcc:対応1	5
Α.	•	l リファレンス 1	
В.	vpop	mail リファレンス	22

qmail メモランタ	ľΔ
-------------	----

C. SMTP/POP3 over SSL の例23

1. はじめに

1.1. 本書について

本書では、qmailを用いてメールサーバを構築した際の手順をまとめています。

メールサービスの要求仕様として以下のものを策定します。なお、qmail は Fedore Core Linux 上で構築しています。

第三者による不正中継の防止

メール送信時に POP before SMTP による POP3 認証をベースに不正中継を防止します。 仮想ドメイン、および仮想ユーザによる管理

vpopmailを用いてシステム上にアカウントを作成せずユーザ管理を行ないます。

メーリングリストの利用

qmail の基本機能を利用しますが、qmailadmin によるメーリングリスト管理が行なえるようにします。

1.2. 前提知識

Unix、または Windows の基本的なユーザオペレーションと、管理オペレーションが可能であることを想定しています。また、一般的な Internet プロトコルや、それに基づいて実装されたアプリケーションなどについて知っている必要があります。

本書では、ソフトウェア上の設定に関して、parameter = value といった実際の設定情報についてのみ記述します。これらの設定情報についての詳細は関連マニュアルを参照するべきでしょう。 以下に挙げるドキュメントを参照しておくことを推奨します。

文献

文献	著者	リンク
The qmail home page	D.J. Bernstein	http://qmail.get7.biz/top.html
	前野年紀	http://www.qmail.jp/qmail.html
qmail による SMTP サーバの構築	鶴長鎮一	http://www.atmarkit.co.jp/flinux/rensai/qmai
		l01/qmail01a.html
Make full use of qmail , a high	仙石浩明	http://www.gcd.org/sengoku/docs/NikkeiLin
performance mail transfer agent		ux00-03/Welcome.ja.html
STRAY PENGUIN qmail	?	http://www.asahi-net.or.jp/~aa4t-nngk/qmai
		<u>l.html</u>

2. メールサービス構築 (1)

2.1 サービス概要

MTA として qmail を動作させ、メールの送受信が行えるようにします。

POP before SMTP により、オープンリレーを禁止するように構成し、ヴァーチャルドメインとヴァーチャルユーザをサポートできるようにします。

2.2 必要ソース

以下の表にあるソースを入手します。

必要ソース

ソース	備考
qmail-1.03.tar.gz	qmail 本体。
qmail-0.0.0.0.patch	IP アドレス 0.0.0.0 をローカルアドレスとするパッチ。
qmail-1.03.errno.patch	glibc2.3.1 以降の環境でコンパイルエラーが発生する問題を解決する
qmail-1.03.qmail_local.patch	パッチ。
qmail-date-localtime.patch	時刻の表示をローカルタイム(JST)にするパッチ。
qmail-dns-patch	512 バイト以上の DNS 応答パケットに対応するパッチ。
qmail-smtpd-relay-reject.patch	メールアドレスのユーザ名部分に"@"、"!"、"%"が含まれているメールを拒否するパッチ。
qmailqueue-patch	qmail-scanner を使用する場合に必要となるパッチ。
qregex-20040601.patch	badmailfrom ファイルに正規表現を利用可能にするパッチ。
sendmail-flagf.patch	qmail 付属の sendmail にオリジナルの"-f"オプションを利用可能にするパッチ。
vpopmail-5.4.8.tar.gz	ヴァーチャルドメイン/ユーザを構築するパッケージ。
daemontools-0.76.tar.gz	デーモン制御パッケージ。
daemontools-0.76.errno.patch	glibc2.3.1 以降の環境でコンパイルエラーが発生する問題を解決するパッチ。
ucspi-tcp-0.88.tar.gz	inetd/xinetd のようなインターネットスーパデーモン。
ucspi-tcp-0.88.a_record.patch	glibc2.3.1 以降の環境でコンパイルエラーが発生する問題を解決する
ucspi-tcp-0.88.errno.patch	パッチ。
ucspi-tcp-0.88.nobase.patch	

2.3 ucspi-tcp 構築方法

tcpserver 経由で qmail を動作させます。最初にパッチを適用します。

```
# tar zxvf ucspi-tcp-0.88.tar.gz
...
# cd ucspi-tcp-0.88
# patch -pl < ../ucspi-tcp-0.88.nobase.patch
patching file rblsmtpd.c
# patch -pl < ../ucspi-tcp-0.88.a_record.patch
patching file rblsmtpd.c
# patch -pl < ../ucspi-tcp-0.88.errno.patch
patching file error.h</pre>
```

パッチの適用後、コンパイル/インストールします。

```
# make
# make setup check
```

2.4 daemontools 構築方法

qmailの動作制御をdaemontoolsで行います。以下のディレクトリを作成した後、パッチを適用します。

```
# mkdir -p /package
# chmod 1755 /package
# cd /package
# tar zxvf daemontools-0.76.tar.gz
# cd admin/daemontools-0.76
# patch -p1 < ./daemontools-0.76.errno.patch
patching file error.h</pre>
```

パッチの適用後、コンパイル/インストールします。

```
# ./package/install
```

この時点で、以下のディレクトリが作成されているはずです。

```
$ 1s -1 /
...
drwxr-xr-x   2 root root   4096 Nov 16 15:56 command
drwxr-xr-x   2 root root   4096 Dec 24 11:33 service
...
```

/package/admin/daemontools/command ディレクトリ以下に実行可能ファイルがあり、/command ディレクトリ以下に、その実行可能ファイルのシンボリックリンクが作成されるでしょう。また、/etc/inittab ファイルの末尾に以下の 1 行が追加されます。

```
$ tail -f /etc/inittab
...
SV:123456:respawn:/command/svscanboot
```

インストール時に、init プロセスが kill コマンドにより再構成されますので、ps コマンドで以下のプロセスが確認できるでしょう。

```
$ ps axw
...
31631 ? S 0:00 /bin/sh /command/svscanboot
31633 ? S 0:04 svscan /service
...
```

2.5 qmail の構築方法

2.5.1. パッチ適用

本体をコンパイルする前に、いくつかのパッチを適用します。以下の順序で適用してください。

```
# tar zxvf qmail-1.03.tar.gz
# cd qmail-1.03
# patch -p2 < ../qregex-20040601.patch</pre>
patching file hier.c
patching file install-big.c
patching file Makefile
patching file qmail-control.9
patching file qmail-showctl.c
patching file qmail-smtpd.8
patching file qmail-smtpd.c
patching file qregex.c
patching file qregex.h
patching file README.qregex
patching file TARGETS
# patch < ../qmail-smtpd-relay-reject.patch</pre>
patching file qmail-smtpd.c
Hunk #1 succeeded at 61 (offset 8 lines).
Hunk #2 succeeded at 258 with fuzz 1 (offset 41 lines).
Hunk #3 FAILED at 307.
1 out of 3 hunks FAILED -- saving rejects to file qmail-smtpd.c.rej
# patch -p1 < ../qmail-0.0.0.0.patch</pre>
patching file ipme.c
# patch -p1 < ../qmail-dns-patch</pre>
patching file dns.c
# patch -p1 < ../qmailqueue-patch</pre>
patching file Makefile
patching file qmail.c
# patch -p1 < ../qmail-1.03.errno.patch</pre>
patching file cdb_seek.c
patching file dns.c
patching file error.3
patching file error.h
# patch -p1 < ../qmail-1.03.qmail_local.patch</pre>
patching file qmail-local.c
# patch -p1 < ../qmail-date-localtime.patch</pre>
patching file date822fmt.c
```

qmail-smtpd-relay-reject.patch はパッチの適用に失敗しますので、エディタで修正します。323 行を追加してください。

2.5.2. ユーザ/グループ作成

qmail の動作用にアカウントを作成します。

```
# mkdir /var/qmail
# groupadd -g 200 nofiles
# useradd -g nofiles -u 250 -d /var/qmail/alias -s /bin/false aliase
# useradd -g nofiles -u 251 -d /var/qmail -s /bin/false qmaild
# useradd -g nofiles -u 252 -d /var/qmail -s /bin/false qmaill
# useradd -g nofiles -u 253 -d /var/qmail -s /bin/false qmailp
# groupadd -g 201 qmail
# useradd -g qmail -u 254 -d /var/qmail -s /bin/false qmailq
# useradd -g qmail -u 255 -d /var/qmail -s /bin/false qmailr
# useradd -g qmail -u 256 -d /var/qmail -s /bin/false qmails
```

2.5.3. コンパイル/インストール

qmail をコンパイル/インストールします。

```
# make setup
# make check
# ./config
```

2.5.4. コントロールファイル編集

/var/qmail/control ディレクトリ以下の各種設定ファイルを編集します。

コントロールファイル

ファイル名	パラメータ	備考
defaultdomain	your domainname	"."がないホスト部にはこの名前を追加します。
locals	localhost	ローカル処理すべきドメイン名の一覧。
		一行にひとつずつ書くようにします。省略される
		と me を使用しますが、どちらもなければ
		qmail-send は起動されません。
		user@ domainというアドレスは domainが locals
		にあるときローカルだと判定されます。
rcpthosts	localhost	RCPT に現れてよいドメイン名の一覧。
	your domainname	rcpthosts に載っていないドメイン宛のメールは
	MX FQDN	受け取りません。
		環境変数 RELAYCLIENT が設定されているとき
		には、 rcpthosts を無視して qmail-smtpd はすべ
		てのメールを受け付けます。
me	MX FQDN	本サーバの FQDN。
plusdomain	your domainname	"+"で終わるホスト名には、この名前が付け加えら
		れます。

また、/var/qmail/alias ディレクトリ以下に、基本的なアカウント設定も行います。

基本アカウント

ファイル名	パラメータ	備考
.qmail-mailer-daemon	&root	エラーメール等の送信先はroot宛転送しま
.qmail-postmaster		す。
.qmail-root	&admin's mailaddr	root 宛に来たメールは、実際の管理者へ
		転送します。

2.5.5. gmail 起動構成 - rc

daemontools を利用して、qmail の起動管理を行います。最初に起動スクリプトを作成します。

```
# vi /var/qmail/rc
#!/bin/sh
exec env - PATH="/var/qmail/bin:$PATH" ¥
qmail-start ./Maildir/
...
```

サービス用のディレクトリを作成します。

```
# mkdir /var/qmail/service
# mkdir /var/qmail/service/qmail
# mkdir /var/qmail/service/qmail/log
# chmod +t /var/qmail/service/qmail
```

制御用のスクリプトを作成します。

```
# vi /var/qmail/service/qmail/run
#!/bin/sh
PATH=/var/qmail/bin:/usr/local/bin:/usr/bin
exec /var/qmail/rc
...
# vi /var/qmail/service/qmail/log/run
#!/bin/sh
exec /usr/local/bin/setuidgid qmaill /usr/local/bin/multilog t /var/log/
qmail
...
# chmod +x /var/qmail/service/qmail/run
# chmod +x /var/qmail/service/qmail/log/run
```

ログの出力先を作成します。

```
# mkdir /var/log/qmail
# chown qmaill:nofiles /var/log/qmail
# chmod 700 /var/log/qmail
```

/service ディレクトリにシンボリックリンクを作成します。

```
# ln -s /var/qmail/service/qmail /service/qmail
```

ps コマンドで以下のプロセスを確認してください。

```
$ ps axw
31631 ?
                 0:00 /bin/sh /command/svscanboot
           S
31633 ?
            S
                 0:04 svscan /service
31634 ?
            S
                  0:00 readproctitle service errors: ......
31643 ?
            S
                  0:00 supervise log
31644 ?
            S
                  0:00 supervise qmail
31646 ?
                  0:05 qmail-send
            S
                  0:02 qmail-lspawn ./Maildir/
31663 ?
            S
31664 ?
            S
                  0:00 qmail-rspawn
31665 ?
                 0:03 qmail-clean
31650 ?
            S
                  0:01 /usr/local/bin/multilog t /var/log/qmail
```

2.5.6. qmail 起動構成 - qmail-smtpd

daemontools を利用して、qmail-smtpd の起動管理を行います。最初にサービス用のディレクトリを作成します。

```
# mkdir /var/qmail/service/qmail-smtpd
# mkdir /var/qmail/service/qmail-smtpd/log
# chmod +t /var/qmail/service/qmail-smtpd
```

制御用のスクリプトを作成します。

```
# vi /var/qmail/service/qmail-smtpd/run
#!/bin/sh
PATH=/var/qmail/bin:/usr/local/bin:/bin:/usr/bin:/home/vpopmail/bin
exec tcpserver -v -x /home/vpopmail/etc/tcp.smtp.cdb -R -H ¥
-u `id -u qmaild` -g `id -g qmaild` ¥
0 smtp qmail-smtpd 2>&1
    ...
# vi /var/qmail/service/qmail-smtpd/log/run
!/bin/sh
exec /usr/local/bin/setuidgid qmails /usr/local/bin/multilog t /var/log/
qmail-smtpd
    ...
# chmod +x /var/qmail/service/qmail-smtpd/run
# chmod +x /var/qmail/service/qmail-smtpd/log/run
```

ログの出力先を作成します。

```
# mkdir /var/log/qmail-smtpd
# chown qmaill:nofiles /var/log/qmail-smtpd
# chmod 700 /var/log/qmail-smtpd
```

/service ディレクトリにシンボリックリンクを作成します。

```
# ln -s /var/qmail/service/qmail-smtpd /service/qmail-smtpd
```

ps コマンドで以下のプロセスを確認してください。

```
$ ps axw
31631 ?
                 0:00 /bin/sh /command/svscanboot
            S
31633 ?
           S
                 0:04 svscan /service
31634 ?
            S
                  0:00 readproctitle service errors: ......
31647 ?
                 0:00 supervise qmail-smtpd
            S
31648 ?
            S
                  0:00 supervise log
31661 ?
            S
                 0:01 tcpserver -v -x /home/vpopmail/etc/tcp.smtp.cdb
-R -H -u 251 -g 200 0 smtp qmail-smtpd
31662 ?
                  0:00 /usr/local/bin/multilog t /var/log/qmail-smtpd
```

2.5.7. gmail 起動構成 - gmail-pop3d

daemontools を利用して、qmail-pop3d の起動管理を行います。最初にサービス用のディレクトリを作成します。

```
# mkdir /var/qmail/service/qmail-pop3d
# mkdir /var/qmail/service/qmail-pop3d/log
# chmod +t /var/qmail/service/qmail-pop3d
```

制御用のスクリプトを作成します。

```
# vi /var/qmail/service/qmail-pop3d/run
#!/bin/sh
PATH=/var/qmail/bin:/usr/local/bin:/usr/bin:/home/vpopmail/bin
exec tcpserver -v -R -H 0 pop3 qmail-popup ¥
  `cat /var/qmail/control/me` vchkpw ¥
sh -c 'echo vchkpw: $USER login >&4; qmail-pop3d Maildir' 2>&1 4>&1
    ...
# vi /var/qmail/service/qmail-pop3d/log/run
#!/bin/sh
exec /usr/local/bin/setuidgid qmailp /usr/local/bin/multilog t /var/log/
qmail-pop3d
    ...
# chmod +x /var/qmail/service/qmail-pop3d/run
# chmod +x /var/qmail/service/qmail-pop3d/log/run
```

ログの出力先を作成します。

```
# mkdir /var/log/qmail-pop3d
# chown qmaill:nofiles /var/log/qmail-pop3d
# chmod 700 /var/log/qmail-pop3d
```

/service ディレクトリにシンボリックリンクを作成します。

```
# ln -s /var/qmail/service/qmail-pop3d /service/qmail-pop3d
```

ps コマンドで以下のプロセスを確認してください。vpopmail をインストールしている場合には、このような出力になります。

```
$ ps axw
31631 ?
                  0:00 /bin/sh /command/svscanboot
31633 ?
                 0:04 svscan /service
            S
31634 2
                  0:00 readproctitle service errors: ......
            S
31642 ?
            S
                  0:00 supervise qmail-pop3d
31643 ?
                  0:00 supervise log
31659 ?
            S
                  0:10 tcpserver -v -R -H 0 pop3 qmail-popup FQDN vchkpw
qmail-pop3d Maildir
31660 ?
            S
                  0:07 /usr/local/bin/multilog t /var/log/qmail-pop3d
```

2.6 vpopmail 構築方法

2.6.1. ユーザ/グループ作成

vpopmail の動作用にアカウントを作成します。

- # groupadd -g 202 vchkpw
- # useradd -g vchkpw -u 257 -d /home/vpopmail -s /bin/false vpopmail

2.6.2. コンパイル/インストール

vpopmail をコンパイル/インストールします。

```
# mkdir /home/vpopmail/etc
# cd etc
# touch tcp.smtp
# chown vpopmail:vchkpw tcp.smtp
...
$ tar zxvf vpopmail-5.4.8.tar.gz
...
$ cd vpopmail-5.4.8
$ ./configure --enable-roaming-users=y --enable-relay-clear-minutes=10
--enable-tcpserver-file=/home/vpopmail/etc/tcp.smtp
--enable-clear-passwd=n --enable-tcprules-prog=/usr/local/bin/tcprules
--enable-qmail-ext=n
$ make
# make install-strip
```

コンパイル時のオプションは以下の意味になります。

configure オプション

オプション	パラメータ	備考
enable-roaming-users	у	POP before SMTP を有効化します。
enable-relay-clear-minutes	10	POP 認証後のリレー有効時間を指定
		します。
enable-tcpserver-file	/home/vpopmail/etc/tcp.smtp	tcpserver が使用する接続制御デー
		タベースを指定します。
enable-clear-passwd	n	パスワードファイルに生のパスワード
		を残さないように指定します。
enable-tcprules-prog	/usr/local/bin/tcprules	tcprules がインストールされているパ
		スを指定します。
enable-qmail-ext	n	ヴァーチャルユーザに対して
		username-xxx 形式のアドレスを許可
		しないように指定します。

2.6.3. 接続制御データベース作成

/home/vpopmail/etc/tcp.smtp ファイルを編集します。

接続制御データベース

ルール	備考
127.:allow,RELAYCLIENT=""	tcpserver は、ローカルホストからの SMTP コネクションを受け付け、
	RELAYCLIENT 環境変数を定義して qmail-smtpd を起動します。
	qmail-smtpd は、RELAYCLIENT 定義された場合、rcpthosts ファイルを
	参照しません。
:allow	tcpserver は、 あらゆるネットワークからの SMTP コネクションを受け付け、
	qmail-smtpd を起動します。
	qmail-smtpd は、rcpthosts ファイルに定義されたドメイン名宛のメールの
	み処理します。

tcp.smtp ファイルから tcp.smtp.cdb ファイルを生成します。

```
# cd /home/vpopmail/etc
# tcprules tcp.smtp.cdb tcp.smtp.tmp < tcp.smtp</pre>
```

2.6.4. 接続制御データベース自動クリーンアップ

POP 認証後に接続制御データベースへ追加されたアクセス元 IP アドレス等の情報を定期的に消去させます。

```
# cd /etc/cron.d
# vi clearopensmtp
*/5 * * * root /home/vpopmail/bin/clearopensmtp 2>&1 > /dev/null
...
# kill -HUP crond's pid
```

2.6.5. vpopmail ホームディレクトリ権限

tcpserver が qmaild ユーザの権限で動作している場合、tcp.smtp.cdb の配置場所によっては読み込み権限がない旨のエラーが発生する場合があります。

```
# ls -ld /home/vpopmail
drwx----- 8 vpopmail vchkpw 4096 Nov 16 13:02 /home/vpopmail
# chmod 755 /home/vpopmail
# ls -ld /home/vpopmail
drwxr-xr-x 8 vpopmail vchkpw 4096 Nov 16 13:02 /home/vpopmail
```

この部分は構築環境に依存しますので、この種のエラーが発生した場合には、ディレクトリ/ファイルの権限を確認してください。

2.6.6. ヴァーチャルドメイン/ヴァーチャルユーザ追加

以下のように、ヴァーチャルドメインを追加します。

```
# cd /home/vpopmail
# bin/vadddomain your domainname
Please enter password for postmaster:passwd
enter password again:passwd
```

以下のように、ヴァーチャルユーザを追加します。

```
# cd /home/vpopmail
# bin/vadduser user's mailaddr
Please enter password for user's mailaddr:passwd
enter password again:passwd
```

2.7 DNS 設定

以下のように、MX レコードの設定を行います。

DNS 設定

セグメント	内容
社外	your domainname MX preference = n, mail exchanger = 1st MX FQDN
	your domainname MX preference = n+1, mail exchanger = 2nd MX FQDN
社内	必要に応じて設定します。

3. メールサービス構築 (2)

3.1 サービス概要

前章で構築した qmail から ezmlm を使用したメーリングリストが利用できるようにします。 また、ヴァーチャルユーザやメーリングリストの管理を web インタフェースで行えるようにします。

3.2 必要ソース

以下の表にあるソースを入手します。

構築に必要なソース

ソース	備考
ezmlm-0.53.tar.gz	メーリングリスト本体。
ezmlm-idx-0.40.tar.gz	ezmlm 拡張パッチ。
ezmlm-idx-0.53.400.unified_41.patch	glibc2.3.1 以降の環境でコンパイルエラーが発生する問題を解決する パッチ。
mime_pls202.tgz	MIME エンコード perl ライブラリ。
qmailadmin-1.2.0.tar.gz	qmail/vpopmail の管理用 web インタフェース。
autorespond-2.0.5.tar.gz	qmail アドオン。自動応答機能を利用可能にします。

3.3 ezmlm 構築方法

最初にパッチを適用します。ezmlm-idx は、ezmlm の機能を拡張します。

```
$ tar zxvf ezmlm-0.53.tar.gz
...
$ tar zxvf ezmlm-idx-0.40.tar.gz
...
$ mv ezmlm-idx-0.40/* ezmlm-0.53
$ cd ezmlm-0.53
$ patch idx.patch
...
$ patch < ../ezmlm-idx-0.53.400.unified_41.patch
...</pre>
```

パッチの適用後、コンパイル/インストールします。ezmlmrc.ja は自動応答メッセージやヘルプを日本語化したものです。

```
$ make clean
$ make
$ make man
$ cp ezmlmrc.ja ezmlmrc
# make setup
```

3.4 qmailadmin 構築方法

最初に autoresponder をインストールします。

```
$ tar zxvf autorespond-2.0.5.tar.gz
...
$ cd autorespond-2.0.5
$ make
# make install
...
$ tar zxvf qmailadmin-1.2.0.tar.gz
...
$ cd qmailadmin-1.2.0
$ ./configure --enable-htmldir=/var/qmailadmin --enable-cgibindir=/var/qmailadmin/cgi-bin --enable-html-tibdir=/var/qmailadmin/cgi-bin --enable-html-tibdir=/var/qmailadmin/share
$ make
# make install-strip
```

qmailadmin のコンパイル時のオプションは以下の意味になります。

configure オプション

オプション	パラメータ	備考
enable-htmldir	/var/qmailadmin	apache のドキュメントルートを指定します。
enable-cgibindir	/var/qmailadmin/cgi-bin	apache の CGI ディレクトリを指定します。
enable-help		ログインページにヘルプ用リンクを作成します。
disable-ezmlm-mysql		MySQL を使用しません。
enable-htmllibdir	/var/qmailadmin/share	qmailadmin 付属の HTML、画像データのインス
		トール場所を指定します。

3.5 apache 構築方法

httpd.conf ファイル

基本部分
HTTP の要求をリスニングする。
Listen 80
User apache
Group apache
ServerAdmin root@localhost
ServerName FQDN:80
URL 補完を行う。
UseCanonicalName On
サーバ情報をプロダクト名だけにする。
ServerTokens ProductOnly
余分なコンフィグレーションを無効にする。
#Include conf.d/*.conf
余分な Alias を無効にする。
#Alias /icons/ "/var/www/icons/"
#AliasMatch ^/manual(?:/(?:de en fr ja ko ru))?(/.*)?\$ "/var/www/manual\$1"
#ScriptAlias /cgi-bin/ "/var/www/cgi-bin/"
#Alias /error/ "/var/www/error/"
ヴァーチャルホスト設定を別ファイルにする。
include "/etc/httpd/conf/virtualhost.conf"

^{*.}confファイルの設定例を以下に示します。

virtualhost.conf ファイル

```
ヴァーチャルホスト部分
NameVirtualHost IP addr:80
<VirtualHost IP addr:80>
 DocumentRoot /var/qmailadmin
 ServerName FQDN
 ErrorLog /var/log/qmailadmin_error.log
 CustomLog /var/log/qmailadmin_access.log common
 mod_rewriteモジュールを使用する。
 RewriteEngine On
 Host:ヘッダに、FQDNが設定されていれば、
 RewriteCond %{HTTP HOST} ^FODN
 RewriteCond %{REQUEST_URI} ^/$
 http://FQDN/ cgi-bin/qmailadminへリダイレクトさせる。
 RewriteRule ^/(.*)$ http://FQDN/cgi-bin/qmailadmin [R]
 Host:ヘッダに、alias FQDNが設定されていれば、
 RewriteCond %{HTTP_HOST} ^alias FQDN
 RewriteCond %{REQUEST_URI} ^/$
 http://alias FQDN/cgi-bin/qmailadminへリダイレクトさせる。
 RewriteRule ^/(.*)$ http://alias FQDN/cgi-bin/qmailadmin [R]
 「Forbidden」、「Not Found」のステータスでは、特にエラーを表示せずにトップページへリダイレクトする。
 ErrorDocument 403 http://FQDN/
 ErrorDocument 404 http://FQDN/
 qmailadminを実行可能にする。
 ScriptAlias /cgi-bin/ /var/qmailadmin/cgi-bin/
 <Directory /var/qmailadmin/cgi-bin>
  AllowOverride AuthConfig
  Options ExecCGI
   order allow, deny
  allow from all
 </Directory>
 qmailadminのHTML、画像を表示可能にする。
 Alias /images/ /var/qmailadmin/images/
 <Directory /var/qmailadmin/html/images>
  AllowOverride AuthConfig
   order allow, deny
   allow from all
 </Directory>
</VirtualHost>
```

設定変更後、apache を再起動して設定した URL をブラウザでアクセスすると管理インタフェースが表示されます。

3.6 メーリングリスト件名対応

メーリングリストの件名で、[test:1] の通し番号が付いたメールに返信した場合に、件名

が[test2] Re: [test:1] とならないようにします。

最初に mimer.pl と mimew.pl をインストールします。MIME のエンコード/デコードは Outlook Express 用の対策です。

```
$ tar zxvf mime_pls202.tgz
...
# cp mimer.pl mimew.pl /usr/lib/perl5/site_perl/5.8.3/i386-linux-thread
-multi
```

フィルタ用のスクリプトを用意します。

```
# vi /usr/local/bin/ezmlm/re_prefix
    #!/usr/local/bin/perl
  use strict;
  require 'mimer.pl';
  require 'mimew.pl';
my $done = 0;
  while (my $buf = <STDIN>) {
                      if($done == 0) {
                                               $buf = mimedecode($buf);
                                               if ($buf =~ /^Subject:/) {
                                                                      \int S^{-s} (R[Ee] x^{-s}) x^{-s} (R[Ee] x^{s
    ]\forall s*:\forall s*
                                                                  $buf =~ s/^Subject:\foots\foots\(F[Wow]\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foots\foo
    ¥s*:\frac{\frac{1}{3}}{3};
                                                                    done = 1;
                                               } elsif($buf =~ /^$/) {
                                                                    $done = 1;
                                             $buf = mimeencode($buf);
                  print $buf;
  }
```

ezmlm の editor ファイルを編集します。

```
# vi /home/vpopmail/domains/your domainname/all/editor
...
|/usr/local/bin/ezmlm/re_prefix | /usr/local/bin/ezmlm/ezmlm-send '/hom
e/vpopmail/domains/your domainname/ML_name'
...
```

3.7 メーリングリスト Bcc:対応

ezmlm のデフォルト設定では、Bcc:をメーリングリストで利用できません。利用するためには、editor ファイルを編集します。

```
# vi /home/vpopmail/domains/your domainname/all/editor
...
|/usr/local/bin/ezmlm/ezmlm-reject -T '/home/vpopmail/domains/your
domainname/all'
...
```

A. qmail リファレンス

qmail で動作する各プロセスの挙動を以下に示します。

qmail 動作概説

プロセス	動作概要
qmail-inject	ローカルユーザが送信したメールは、このプログラムによって、ヘッダから送信者、および受信
	者アドレスが読み取られて、メール本文、および送信者と受信者のアドレスが qmail-queue プロ
	セスへ送られます。
qmail-smtpd	リモートユーザが送信したメールは、tcpserver 経由でこのプロセスが受け取り、メール本文、お
	よび送信者と受信者のアドレスが qmail-queue プログラムへ送られます。
qmail-queue	送られてきたメール本文、および送信者と受信者のアドレスをキューに格納して、qmail-send プ
	ロセスに対してトリガを送ります。
qmail-send	トリガを受け取ると、キューに格納された送信者と受信者のアドレスを読み出し、ローカルユーザ
	宛は qmail-lspawn プロセスに配送コマンドを送り、リモートユーザ宛は qmail-rspawn プロセス
	に配送コマンドを送ります。
	qmail-Ispawn、qmail-rspawn プロセスから正常に配送した応答を受け取ると、qmail-clean プ
	ロセスに対してコマンドを送ります。
qmail-clean	qmail-send プロセスからコマンドを受け取ると、キューからメールを削除します。
qmail-Ispawn	配送コマンドを受け取ると、受信者アドレス、および受信者ユーザのホームディレクトリなどを引
	数として、受信者のユーザ権限で qmail-local プログラムを起動します。
qmail-local	受信者ユーザのホームディレクトリにある.qmail ファイルを参照して、メールボックスへメールを
	格納、ファイルへのメール追加、またはプログラム実行を行います。
qmail-rspawn	配送コマンドを受け取ると、受信者アドレスなどを引数として qmail-remote プログラムを起動しま
	す。
qmail-remote	DNS で検索して取得した宛先 MTA に対して SMTP 接続し、メールを送信します。
qmail-popup	ユーザがメールを受信する際に、tcpserver 経由でこのプロセスがユーザ名、およびパスワード
	を受け取り、これらを引数として vchkpw プログラムを起動します。
	vchkpw がユーザ認証に成功すると、このプロセスが qmail-pop3d プログラムを起動します。
vchkpw	vpopmail が管理するパスワードファイルを基に、認証を行います。
qmail-pop3d	ユーザのメールスプールからメール取得します。

qmail-inject が参照するコントロールファイルを以下に示します。

qmail-inject 参照ファイル

ファイル	デフォルト	設定概要
defaultdomain	me	省略時ドメイン名。
		"."がないホスト部にはこの名前を追加します。 defaulthost に"."が含まれて
		いない場合は、これも対象になります(例外は plusdomain を見よ)。
		QMAILDEFAULTDOMAIN 環境変数により変更可。
defaulthost	me	省略時ホスト名。
		ホスト部のないアドレスにはこの名前を追加します。 defaulthost はホスト名
		である必要はありません。
		例えば、発信メールにはドメイン名だけを付ける、といった場合などです。
		QMAILDEFAULTHOST 環境変数により変更可。
idhost	me	Message-ID につけるホスト名。
		idhost はホスト名である必要はありません。
		例えば、Message-ID につくホスト名を変えたい、といった場合などです。
		しかし、idhost は FQDN であり、 かつドメイン内の各ホストは異なった
		idhost を使わなければなりません。
		QMAILIDHOST 環境変数により変更可。
plusdomain	me	追加ドメイン名。
		"+"で終るホスト名にはこの名前を付け加えます。defaulthost の最後がプラ
		スの場合でも同様です。
		ホスト名が"."を含まず、最後が"+"の場合は defaultdomain ではなく
		plusdomain を追加します。 QMAILPLUSDOMAIN 環境変数により変更
		可。

qmail-smtpd が参照するコントロールファイルを以下に示します。

qmail-smtpd 参照ファイル

ファイル	デフォルト	設定概要
badhelo	なし	
badmailfrom	なし	受信を拒否するエンベロープ発信アドレス。
		エンベロープ発信者アドレスが badmailfrom に含まれている場合、
		qmail-smtpd はメッセージに対する各エンベロープ受信者アドレスを拒否し
		ます。 badmailfrom に書く行は@ <i>hostという</i> 形式でも構いません。
		このとき host というアドレス(ドメイン部)からのメールはまったく受け取りませ
		ん。 qregex パッチを適用すると、正規表現が使用できます。
badmailto	なし	受信を拒否するエンベロープ受信アドレス。
		エンベロープ受信者アドレスが badmailto に含まれている場合、
		qmail-smtpd はメッセージに対する各エンベロープ受信者アドレスを拒否し
		ます。 badmailfrom と同様に正規表現を使用できます。
databytes	0	受信メッセージ長の上限。0 は無制限を表します。
		メッセージ長が上限を越えると、qmail-smtpd は恒久エラーを返します。
		一方、ディスク領域が無〈なった場合や qmail-smtpd が資源の上限まで使
		いきった場合には一時エラーを返します。
localiphost	i me	自ホストのIP アドレスに対応するホスト名。
		qmail-smtpd は IP アドレスを使った宛先アドレスを認識します。
		自ホストの IP アドレスに対応している box@d.d.d.d という形の エンベロー
		プ宛先アドレスがあった場合、d.d.d.d の部分を localiphost で置き換えま
		す。この置き換えは rcpthosts の処理の前に行われます。

morercpthosts	なし	受信ドメイン一覧(その 2)。RCPT に現れてよいドメイン名リストのことです。 rcpthosts と morercpthosts の両方が存在する場合、morercpthosts が rcpthosts に追加されたのと同じ効果を持ちます。	
		morercpthosts を変更した場合には、qmail-newmrh を実行するのを忘れないでください。	
		目安としては、よく使う50ドメインをrcpthosts に含め、残りをmorercpthosts に含めるのがよいとされています。	
rcpthosts	なし	受信ドメイン一覧(その 1)。RCPT に現れてよいドメイン名リストのことです。 rcpthosts に含まれないドメイン宛のメールは受け取りません。	
		中継時に、環境変数 RELAYCLIENT が設定されている場合には rcpthosts を無視して qmail-smtpd はすべてのメールを受け付けます。	
		このとき、RELAYCLIENT の値を各受信アドレスの後につけ加えます。 rcpthosts はワイルドカード表記が可能です。また、"@"を含まない宛先アド レスは常に中継を許されます。	
smtpgreeting	me	SMTP セッション最初の挨拶文。 これが設定されていないと qmail-smtpd は起動しません。また、 smtpgreeting の最初の語は現ホスト名でなければなりません。	
timeoutsmtpd	1200	SMTP データ待ち時間。 リモート SMTP クライアントから届〈各データを待つ秒数です。	

qmail-send が参照するコントロールファイルを以下に示します。

qmail-send 参照ファイル

ファイル	デフォルト	設定概要	
bouncefrom	MAILER-DA	差戻し責任者名。	
	EMON		
bouncehost	me	差戻しホスト名。	
		メッセージが配達不能の場合、エンベロープ発信者に single-bounce 通知	
		を送ります。この通知の From:ヘッダは bouncefrom@bouncehostとなりま	
		すがエンベロープ発信者は空のままです。	
concurrencylocal	10	ローカル配送の同時処理プロセス数。	
		0 に設定すると、ローカル配送を停止します。	
		設定できる値はコンパイル時に最大 120 となっています。	
concurrencyremote	20	リモート配送の同時処理プロセス数。	
		 0 に設定すると、リモート配送を停止します。	
		設定できる値はコンパイル時に最大 120 となっています。	
doublebouncehost	me	2 重バウンスホスト名。	
doublebounceto	postmaster	2 重バウンスの宛先。	
		バウンス通知が配送不能となった場合、qmail-send は double-bounce 通	
		知を doublebounceto@doublebouncehost 宛に送ります。	
		それも送れない場合は配送をあきらめます。	
envnoathost	me	ホスト部を省略したアドレスのドメイン名。	
		エンベロープ受信者アドレスに"@"が含まれていない場合、qmail-send が	
		@envnoathost を付け加えます。	
locals	me	ローカル処理すべきドメイン名一覧。	
		一行にひとつずつ書きます。	
		省略すると me が使用されますが、どちらもなければ、qmail-send は起動し	
		ません。 user@domainというアドレスは domainが locals にあるときローカ	
		ルだと判定されます。	

percenthack	なし	パーセントハックを適用するドメイン名一覧。
		domain が percenthack リストに含まれている場合、 user%fqdn@domain
		という形式のアドレスは user@fqdnと書き換えられます。
		user自身に%を含んでいて構いません。その場合は、パーセントハックは繰
		り返し処理されます。
queuelifetime	604800	キューに滞在できる秒数。
		指定時間経過後、qmail-send は再度配送を試みます。ただし、再送時に
		一時的エラーが発生しても配送不能と見なされます。
virtualdomains	なし	ヴァーチャルユーザ、またはヴァーチャルドメインの一覧。
		一行にひとつずつ書きます。
		 ヴァーチャルユーザは user@domain:prepend という形式で、余分の空白
		を含めてはいけません。
		受信アドレスが user@domain である場合、prepend-user@domain であ
		ったものとして ローカルとして扱われます。
		 ヴァーチャルドメインは domain:prepend という形式で、余分の空白を含め
		てはいけません。 domain のすべての受信アドレスに適用されます。
		 nowhere.mil:joe-foo が virtualdomains に含まれていた場合、
		info@nowhere.mil 宛のメールを処理するとき、 受信者アドレスは
		joe-foo-info@nowhere.mil であったとして、メールをローカル配信します。
		 virtualdomains はワイルドカード表記が可能です。
		virtualdomains に許される例外: <i>prepend</i> 部が空の場合は <i>domain</i> がヴァ
	i	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
		qmail-send は virtualdomains を locals の後に処理します。 つまり、もしド
	İ	メインが locals に含まれていれば、 virtualdomains は機能しません。

qmail-remote が参照するコントロールファイルを以下に示します。

qmail-remote 参照ファイル

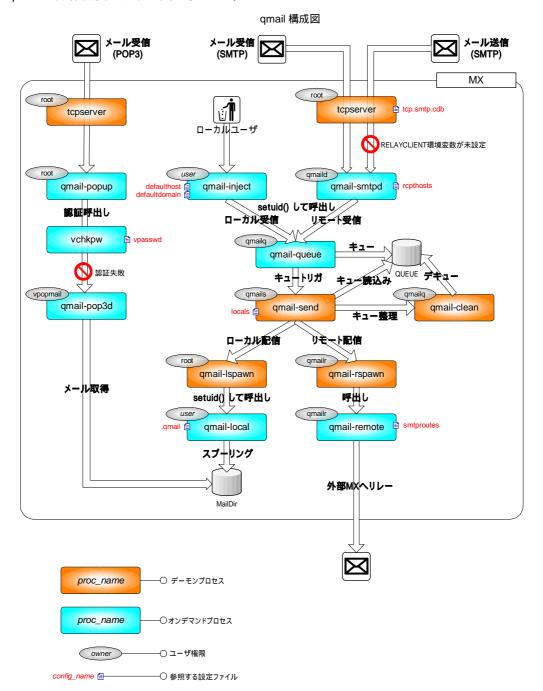
ファイル	デフォルト	設定概要
helohost	me	SMTP 開始ホスト名。
		リモート SMTP サーバに対して hello を返すときにだけ使われるホスト名。
		me がないときは qmail-remote は実行開始できない。
smtproutes	なし	SMTP 経路指定。
		経路は、domain:relay の形式にします。
		余分の空白を含めないようにしてください。relay はホスト名、または大括弧
		で括られた IP アドレスを指定します。
		domain がホスト部とマッチすれば、qmail-remote はホストの MX が relay
		だけであったかのように振舞います。
		また、送信先についての CNAME ルックアップも行いません。
		relay はコロンに続くポート番号を含んでも構いません。
		これは通常の SMTP ポート(25)以外を指定する場合に使います。
		inside.af.mil:firewall.af.mil:26
		 <i>relay</i> は空でもよく、この場合、qmail-remote は普通に MX レコードを検索し
		ます。また、以下のようなワイルドカード表記が可能です。
		.af.mil:
		:heaven.af.mil
		af.mil で終るすべてのアドレス(ただし af.mil そのものは含まない)は、MX
		レコードの宛先に送られ、その他は heaven.af.mil 宛に向けられます。
timeoutconnect	60	接続時待ち時間。
		リモート SMTP サーバが接続を受け付けてから応答するまでに
		qmail-remote が待つ時間(秒)。
		通常、カーネルの制限により 75 秒以上は指定できません。
timeoutremote	1200	応答待ち時間。
		リモート SMTP サーバからの応答を qmail-remote が待つ時間(秒)。

qmail-qmqpc が参照するコントロールファイルを以下に示します。

qmail-qmqpc 参照ファイル

ファイル	デフォルト	設定概要
qmqpservers	なし	QMQP サーバのアドレス一覧。
	İ	一行に 1 つずつ書きます。 QMQP サーバと接続が確立するまでか、 または
		アドレスすべてを試行するまで、順番に各アドレスに接続を試みるでしょう。

qmail の動作概要を以下の図に示します。



21

B. vpopmail リファレンス

ヴァーチャルドメイン毎に機能制限を設定することができます。

.qmailadmin-vlimits ファイル

パラメータ	デフォルト	設定概要
maxpopaccounts	-1	POP アカウント数の上限。
maxforwards	-1	メール転送設定の上限。
maxautoresponders	-1	メール自動応答設定の上限。
maxmailinglists	-1	メーリングリスト設定の上限。
default_quota	無効	ドメインクォータ制限の上限。メガバイト単位。
default_maxmsgcount	無効	ドメインメッセージ数の上限。
quota	無効	ユーザクォータ制限の上限。バイト単位。
maxmsgcount	無効	ユーザメッセージ数の上限。
disable_pop	無効	POP 接続を無効にします。
disable_imap	無効	IMAP 接続を無効にします。
disable_dialup	無効	
disable_password_changing	無効	パスワード変更を無効にします。
disable_external_relay	無効	SMTP 外部リレーを無効にします。
disable_smtp	無効	SMTP 接続を無効にします。
disable_webmail	無効	webmail を無効にします。
perm_account	0	非管理者が POP アカウントを作成/変更/削除できるか?
perm_alias	0	非管理者が別名設定を作成/変更/削除できるか?
perm_forward	0	非管理者がメール転送設定を作成/変更/削除できるか?
perm_autoresponder	0	非管理者がメール自動応答設定を作成/変更/削除できるか?
perm_maillist	0	非管理者がメーリングリストを作成/変更/削除できるか?
perm_quota	0	非管理者がユーザクォータ設定を作成/変更/削除できるか?
perm_defaultquota	0	非管理者がドメインクォータ設定を作成/変更/削除できるか?

C.SMTP/POP3 over SSL の例

ucspi-tcp にパッチを適用して、SSL 対応にします。

```
# tar zxvf ucspi-tcp-0.88.tar.gz
...
# mv ucspi-tcp-0.88 ucspi-tcp-0.88-ssl
# cd ucspi-tcp-0.88-ssl
# patch -p1 < ../ucspi-tcp-0.88.nobase.patch
patching file rblsmtpd.c
# patch -p1 < ../ucspi-tcp-0.88.a_record.patch
patching file rblsmtpd.c
# patch -p1 < ../ucspi-tcp-0.88.errno.patch
patching file error.h
patching file error.h
# patch < ../ucspi-tcp-ssl-20020705.patch</pre>
```

パッチの適用後、コンパイル/インストールします。インストールは手動で行います。

```
# make
# cp tcpserver tcpserver-ssl
# cp tcpserver-ssl /usr/local/bin
```

サーバ証明書を以下のように作成します。

```
# openssl req -newkey rsa:1024 -keyout privatekey_file -nodes -x509 -days
365 -out certificate_file
# cat privatekey_file >> /usr/local/etc/cert.pem
# echo "" >> /usr/local/etc/cert.pem
# cat certificate_file >> /usr/local/etc/cert.pem
```

qmail-smtpd の SMTPS 用制御スクリプトを作成します。

```
# vi /var/qmail/service/qmail-smtpd-ssl/run
#!/bin/sh
PATH=/var/qmail/bin:/usr/local/bin:/usr/bin:/home/vpopmail/bin
exec tcpserver-ssl -s -n /usr/local/etc/cert.pem -v ¥
-x /home/vpopmail/etc/tcp.smtp.cdb -R -H ¥
-u `id -u qmaild` -g `id -g qmaild` ¥
0 smtp qmail-smtpd 2>&1
...
```

qmail-pop3d の POP3S 用制御スクリプトを作成します。

```
# vi /var/qmail/service/qmail-pop3d-ssl/run
#!/bin/sh
PATH=/var/qmail/bin:/usr/local/bin:/usr/bin:/home/vpopmail/bin
exec tcpserver-ssl -s -n /usr/local/etc/cert.pem -v -R -H 0 pop3s ¥
qmail-popup `cat /var/qmail/control/me` vchkpw ¥
sh -c 'echo vchkpw: user $USER login >&4; qmail-pop3d Maildir' 2>&1 4>&1
...
```

制御スクリプトの動作方法は、2.5.6. qmail 起動構成 - qmail-smtpd、および 2.5.7. qmail 起動構成 - qmail-pop3d の節を参照してください。

qmail memorandum

改版履歴

Version 1.0 2005/01/29 新規作成。

製作

Isidore.

本書は 2005 年 1 月現在の情報を元に作成されております。本書に記載されております内容は、許可な〈変更されることがあります。